

だ。しかし、まだまだ情報不足で今後に残された問題が多い。これらの研究は、これで分類についての結論が出たというよりも、今後のより詳細な検討のためのたたき台が提出されたとみるべきものであろう。

近年、日本でも水草の生態や応用面と取り組む研究者がふえる傾向にあるが、その基礎となるべき分類はといえば、未解決の問題、誤って理解されている問題が山積しているのが現状である。日本の水生フローラ研究の基礎が故三木茂博士によって築かれて以後、ごく一部の分類群について再検討が加えられたのみで、大半のグループについては実質的な研究が進んでいない。

私自身の限られた野外調査の経験からも、例えば、ヒシ属やコウホネ属の分類は根本的に再検討する必要があると思うし、イバラモ属やフサモ属についても、最近の欧米での研究の進展に照らし合わせて、今一度、見なおす必要があると感じている。日本の水生フローラの再検討のために、私自身も資料を集めているところであるが、国内の主要な標本庫をみても水草の標本資料はまだまだ不足しているのが実情である。会員諸兄の御協力を願って止まない。
(角野康郎)

○水草研究会第7回全国集会

下記のとおり全国集会を開催致しますので、奮って御参加下さい。なお、参加御希望の方は会報18号に同封された申込用紙にて7月10日までにお申し込み下さい。

日時：8月3日(土)、4日(日)
場所：五色台国民休暇村(香川県坂出市大屋富町)

講演

1. 桜井善雄(信州大学)：湖沼の水草制御とソウギヨの放流量について。
2. 原田市太郎：イバラモ属雑話。
3. 浜島繁隆(市邨学園高蔵高校)：ガガブタの観察—おもに形態について。
4. 新見 正(毛管浄化研究会)：空缶等を活用する水土耕法・水上花壇。
5. 野口達也(東洋実業K.K.)：水辺のカヤツリグサⅡ
6. 青木雅夫(館林第四中学校)：フサモ属の異形葉。
7. 久米 修(香川県西部林業事務所)：香川県のオニバスの分布。

※8月4日は、高松駅 15時解散の予定。その後、バスは、五色台へ戻ることができます(希望者があれば)。

○会員移動

<新入会>

[Redacted names]

6

<住所変更>

[Redacted names]

<退会>

[Redacted names]

<会則8条(2)による退会>

[Redacted names]

水草研究会会報 No 20 (1985年6月)
 [Bulletin of Water Plant Society, Japan]

発行 水草研究会(神戸市灘区鶴甲1-2-1
 神戸大学教養部生物学教室内)

編集 角野康郎

印刷 中村印刷株式会社
 (神戸市灘区友田町3-2-3)